

事業計画書

事業名	ときわだいらオープンアトリエ事業
団体名	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター
事業概要	
ひとりひとりの違いを認めあうことができる、誰かと出会い、楽しめる、小さくても地域にひらかれた場、オープンアトリエを創造します。2年目となる本年度は、表現の手法をさらに増やし、演劇、音楽、出版へと広げていきます。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	縮小ニッポンといわれるように、人口減少、少子高齢化、労働力不足、貧困の拡大、人々の孤立等の問題は、松戸市においても、年間の孤独死者数は218人（2016）、出生率は1.3（2015）、なんらかの障害をお持ちの方は19,223人（松戸市民25人にひとり/2016/身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者）、児童虐待の相談件数は685件（2016）、高齢者虐待の相談件数は173人（2016）、生活保護の保護率は19.89%となっており、深刻なものといえる。私たちNPOの日々の活動においても、地域で孤立し、様々な生きづらさを抱え、誰にも相談もできず、いのちや暮らしを脅かされている方々が日々、増加していることを実感しています。世代や経済的な状況を問わず、社会的に孤立している人々が増えていることが大きな課題であり、さらにその課題が、困窮、虐待、ホームレスなど、二次的、三次的な課題へとつながっています。そして同時にそのことが、支えあい、助け合いといった共生社会、共生地域の実現を妨げています。
事業の目的	支援の現場でいつも思うことは、どうしてもっと早く相談してくれなかったのか？ということです。程度の差はあれ、社会的に孤立した状態で暮らす多くの人々が、どうしたら、SOSを出してくれるようになるのか？私たちはずっと考えてきました。必要なものは、「自己開示」と「他者理解」。そして「創造」と「想像」、私たちは、まるで違う切り口の場を持つことで、地域で孤立する人々を包摂し、互いに理解できるのではないかと考え、誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場・・・、地域におけるアートとケアのための場＜オープンアトリエ＞が有効なのだろうという結論にたどり着きました。人間が本来持っている表現への欲望を、自由に、気軽に参加できる表現の場、一人ひとりの違いを認めあうことができる時間。誰かと出会い、一緒にアートを楽しめる、小さくても地域にひらかれた場をつくること、そしてその場を一緒につくっていく人々を育成することで、社会的な孤立に抗っていきたいと思っています。 2年目となる本年度は、さらに表現を外に向けて行くことをテーマにし、演劇、音楽、出版など、地域や社会のなかで、つながりや関係性を育んでいく取り組みを実践していきます。

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>○ときわだいらくらしラボ・セミナー（3回） 演劇、音楽、出版といった表現をテーマに、外部講師を招いて、セミナー、ワークショップを開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月 老いと演劇のワークショップ 講師・菅原直樹（【老いと演劇OiBokkeShi】/予定） ・8月 “ローカル×発信” 自分メディアのつくりかた 講師・川口瞬（【真鶴出版】/予定） ・10月 ドラムサークル講師・野田憲一【グループコネクト】/予定） <p>○ときわだいらオープンアトリエ 2023（内部講師）ときわだいらくらしラボ 毎月一回、画材を使って誰でも参加できる表現の場を開設（7回）6月～12月</p> <p>○ときわだいらドラムサークル（内部講師） 毎月一回、誰でも参加できるリズム表現の場を開設（7回）6月～12月</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="459 846 1369 1265"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月～</td> <td>広報活動</td> <td>団体スタッフ、プレス、市内公共施設など</td> </tr> <tr> <td>6～12月</td> <td>オープンアトリエ（7回）</td> <td>団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ</td> </tr> <tr> <td>6～12月</td> <td>ドラムサークル（7回）</td> <td>団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース</td> </tr> <tr> <td>6～10月</td> <td>セミナー（3回）</td> <td>団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月～	広報活動	団体スタッフ、プレス、市内公共施設など	6～12月	オープンアトリエ（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ	6～12月	ドラムサークル（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース	6～10月	セミナー（3回）	団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4月～	広報活動	団体スタッフ、プレス、市内公共施設など														
6～12月	オープンアトリエ（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、ときわだいらくらしラボ														
6～12月	ドラムサークル（7回）	団体スタッフ、内部講師、市民、貸しスペース														
6～10月	セミナー（3回）	団体スタッフ、外部講師、市民、森のホール・リハ室（予定）、ときわだいらくらしラボ														
<p>既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）</p>	<p>私たちディープデモクラシー・センターはこれまで、NPO・市民活動団体の支援、生活困窮者、ホームレスの生活再建の支援、自然災害による被災者の支援、障害をお持ちの方の社会参加の支援などを行ってきました。ひとりひとりと向き合い、ともに歩きながら、「よりよく生きること」を追求してきました。この事業では、常盤平という街を舞台にして、さらにステップアップし、社会的孤立を生まない地域づくり、まちづくりへと挑戦していきたいと考えています。</p>															
<p>事業の目標</p>	<p>セミナーの参加者＝のべ60人 オープンアトリエの参加者＝のべ100人 ドラムサークルの参加者＝のべ70人</p>															
<p>今後の展望</p>	<p>常盤平という、人口増大、高度成長の時代から、高齢化、格差拡大、縮小ニッポンの時代を象徴する街を舞台に、週1回のオープンアトリエの実施を目指し、他地域での展開も目標にします。アートとケアが会うまちづくりを実現していきます。「創造」と「想像」を考えると、私たちは他者のいとなみに自分をかさね、「よりよく生きること」ができるのではないか・・・、地域や人々との出会いによって生まれた創造と想像が重なり合うとき、私たちもまた、それぞれが抱える生きづらさを、あらたな眺望を見せてくれるきっかけへと変えていことができると、信じ活動していきます。</p>															

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団 体	団体拠出金	¥ 168,500	事業費の一部を団体の会計より拠出
	オープンアトリエ参加費 (材料費)	¥ 40,000	@400×100人
	セミナー参加費	¥ 60,000	@1000×60人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 268,500	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 568,500	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助 成 金 の 交 付 対 象 経 費	報償費 (セミナー講師謝金)	¥ 250,000	@100,000×2回、@50,000×1回、
	会場費 (セミナー会場費)	¥ 20,000	@20,000×1回 (ドラムサークル・森のホールリハーサル室)
	会場費 (ドラムサークル会場費)	¥ 21,000	@3,000×7回
	印刷製本費	¥ 50,000	@10×1000枚×5種 (セミナー3回、オープンアトリエ、ドラムサークル)
	委託料	¥ 50,000	チラシデザイン @10,000×5種 (セミナー3回、オープンアトリエ、ドラムサークル)
	消耗品費	¥ 50,000	絵の具@1,000×15 パステル@1,500×15 粘土@400×15 木材@100×30 文具、用紙 3,500
	対象経費の合計 (D)	¥ 441,000	
	そ の 他 経 費	交通費	¥ 85,000
食料費		¥ 42,500	当日スタッフの昼食代 500円×5人×17回
その他経費の合計 (E)		¥ 127,500	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 568,500	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。